

まえがき

道路通信標準（初版）が平成 14 年（2002 年）に公開されてからすでに 3 年が経過した。この間、IT のめざましい進歩にあわせて様々な種類の道路情報システムが開発されてきている。道路通信標準では、これらの新たな道路情報システムとの整合を図るべく仕様の改訂を実施し、平成 18 年（2006 年）2 月に道路通信標準 1.05 版を公開した。

道路通信標準（初版）の公開以降、様々な道路管理のためのシステムや道路情報を提供するシステムが開発されてきたが、この中には、道路通信標準策定時に想定していなかったシステムも含まれている。1999 年 11 月に ITS 関係四省庁（当時 ITS 関係五省庁：建設省、運輸省、警察庁、通商産業省、郵政省）により策定された「高度道路交通システム（ITS）に係るシステムアーキテクチャ」でもカバーしていないシステムやサービスが実現され、あるいは研究・開発が進められており、これらのシステムに対しても柔軟に対応していく必要がある。

また、平成 16 年（2004 年）7 月に開催された「スマートウェイ推進会議（委員長：豊田章一郎経団連名誉会長）」において、これからの ITS の共通基盤の一部として「データ基盤の構築」や「データ形式の統一」の必要性が指摘されている。平成 17 年度末には、国土交通省の道路管理情報を一元的に集約する道路情報共有システムを構築し、データ基盤構築の第一歩を進めつつあり、道路管理情報流通のデータ形式の統一に資する道路通信標準の重要性が再認識されるところとなっている。

本資料は、道路通信標準を適用することにより期待される効果や実際のシステムへの導入実績並びに道路通信標準 1.05 版の主な改定内容等を中心に紹介するものである。

道路通信標準の目的や道路通信標準が規定するデータディクショナリ、メッセージセット、プロトコルの概要や構築手法等の基礎的な事項については、「国総研資料第 24 号 平成 14 年 3 月 道路通信標準」でわかりやすく説明しているので、そちらを参照されたい。

また、システム構築等で道路通信標準の詳細を知りたい場合は、ホームページ上で公開している道路通信標準の本編、パッケージ編及び活用マニュアルを参照されたい。（道路通信標準のドキュメントの体系は次頁の通り）

平成 19 年 1 月

高度情報化研究センター 情報基盤研究室長
金澤 文彦